



## お米と私

高崎市立北小学校 3年 池田 愛梨

私は朝ごはんをおなかいっぱい食べて、今日も元気いっぱい学校に向かった。お母さんがお茶わんいっぱいよそってくれた白米を食べた後はやけに調子が良い。

さい近の日本人はごはん派とパン派に大きく分かれているが、私はもっぱらごはん派だ。たまに朝ごはんにパンを食べる時もあるけど、ごはんを食べた時とちがってすぐにおなかがすいてしまい、きゅう食の時間までもたない。だから私は朝おなかがとくにすいている時は

「今日はお米がいい！」

と朝のあいさつ代わりにお母さんに言う。私は友だちとちがってごはんだけで食べる。まわりの友だちは、

「ごはんだけで食べても味がないじゃん。」

と言うが、私は

「お米だけで食べる方がぜったいおいしい！」

と言いかえす。

お米自身が持っている甘さがやみつきた。おかずといっしょに食べると、その大好きな甘さがおかずの味にじゃまされてしまう。だからごはんがほかの料理といっしょに出てきた時はごはんとおかずはぜったいにべつべつに食べる。そうするとお母さんに

「ごはんばかり食べていないでおかずもいっしょに食べなさい。」

と、よく怒られる。けどごはんだけで食べるという私にとっての幸せはなかなかゆずれない。そこで私はお母さんに、

「なんでごはんだけで食べてはいけないの？」

と聞いたら、お母さんは、

「お料理がんばって作ったんだから。」

私は米のあまりのおいしさにだい事なことをわすれてしまっていた。それは、お母さんが私のためにがんばっておかずを作ってくれているということだ。そのありがたみを忘れずに大好きなお米を味わってみたい。